

土木学会におけるダイバーシティ&インクルージョンの推進

(株) 建設技術研究所 正会員 ○米山賢

1. はじめに

今日、「ダイバーシティ」「多様性」といった言葉は広く社会で用いられており、取り組みが遅れているといわれる土木界でも一般的に使われるようになってきている。

土木学会では、2004年のジェンダー問題検討特別小委員会設置によって活動がスタートし、男女共同参画小委員会、ダイバーシティ推進小委員会を経てダイバーシティ推進委員会に格上げされ、2015年に「ダイバーシティ&インクルージョン行動宣言」(以下、「D&I 行動宣言」という)の策定に至っている。

初期の委員会名称からもわかるように、かつての土木界は女性技術者が極めて少なかったことから、「ジェンダー問題」「男女共同参画」を中心に活動を行ってきたが、D&I 行動宣言の策定や後述する「JSCE2020 プロジェクト」への参画を契機として特定の属性に限定しないD&I 推進を活動の中心に据え、2020年には委員会名称を「ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進委員会 (D&I 推進委員会)」と変更した。

本稿では、この一年、中心的な活動として行ってきた JSCE2020 プロジェクトを中心に D&I 推進委員会の最新の取り組みについて、主なものを紹介する。

2. 活動の概要と成果

(1) JSCE2020 プロジェクト活動

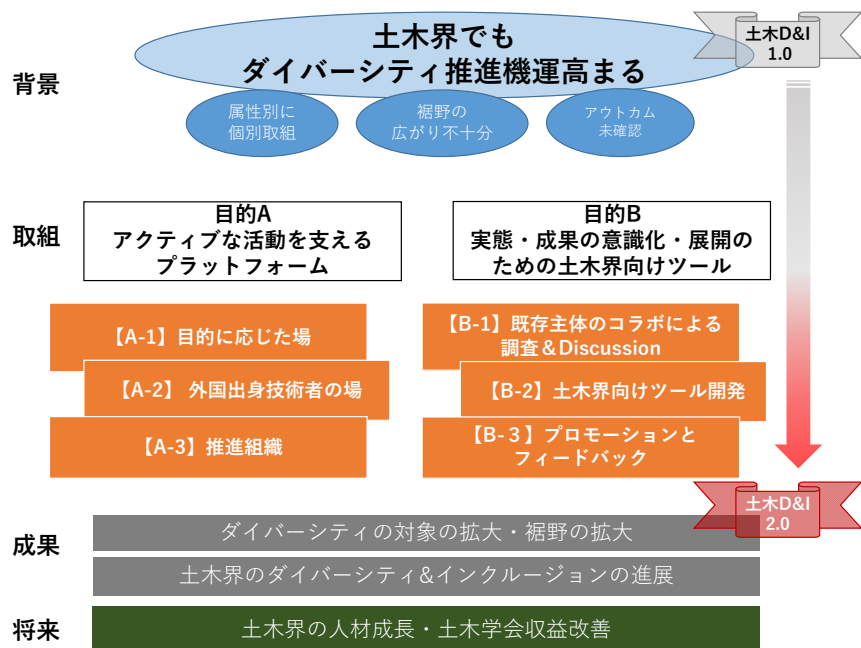
土木学会の2020年度からの新たな5か年計画である「JSCE2020-2024～地域・世代・価値をつなぎ、未来社会を創造する～(略称:JSCE2020)」における4つのプロジェクトの一つとして、「土木 D&I2.0 にむけた活動の場とツールをつくる」が位置づけられた。本プロジェクトは20～30年後に達成すべき目標である中期重点目標の「目標4」に該当する(右表)。

- 目標1 (安全・安心)
安全で安心して豊かな生活ができる持続性の高い国土再構成
- 目標2 (国際)
我が国が有する質の高いインフラの海外展開と国際的諸課題の解決への主体的貢献
- 目標3 (コミュニケーション)
専門的知見に基づく公正な立場での対話と情報蓄積・公開を促すしくみの整備と利活用
- 目標4 (人材)
次世代の土木技術者の育成と多様な人材が活躍できる社会の実現

本プロジェクトの活動は右図に示すように大きく2本の柱からなっており、それぞれ3つのテーマを掲げ、3年間で成果を出すことを予定している。

初年度となる2020年は、目的AについてはA-1及びA-2を、目的BについてはB-1及びB-2に着手した。

「A-1 目的に応じた場」では、すでにある“場”を活用したり、新たな“場”をつくったりして、さまざまな“場”を広げてきた。後者の顕著な成果として、「D&I カフェトーク」が挙げられる。



Key Words : ダイバーシティ, インクルージョン, 生産性向上, JSCE2020 プロジェクト
〒103-8430 東京都中央区日本橋浜町 3-21-1 03-3668-4226 yoneyama@ctie.co.jp

D&I カフェトークは、すでに世の中に存在しているさまざまな D&I を、定期的を開催する 30 分程度のトークを通じてとりあげるという趣旨で行っているもので、2021 年 3 月 31 日時点で 2 回開催した(右:開催案内添付資料)。

「A-2 外国出身技術者の場」では、外国出身技術者の活躍をテーマに土木学会国際センターや他の委員会、支部などと連携して活動を展開し、令和 3 (2021) 年度全国大会において研究討論会

「土木 D&I 2.0 : 考えよう、ルーツの多様性で土木界を元気に」を開催することとしている。

「B-1 既存主体のコラボによる調査&Discussion」及び「B-2 土木界向けツール開発」はツール開発という同一の目的に向けた近い段階の内容であることを踏まえ、早い段階から合同で会議等を行っている。活動は、すでに存在するツールや指標を調査してこれらを参考としながら、実際の利用者や利用場面を想定することにより、ツールの要件定義や内容を具体化する形で進めている。

(2) プロモーション・コミュニケーション活動

各種活動のプロモーション及びあらゆる参加者とのコミュニケーションの場として、委員会の Facebook ページを開設するとともに、D&I ウェブポスター展を開催した。

Facebook ページは行事への参加をスムーズにしたり双方向のやりとりを行ったりするために作成しているもので、カバー画像は右図のように、多様な人が一つのテーブルにつくことを椅子の多様性で表現している。

D&I ポスター展は、各職場等の D&I に関する取り組みを表現したものを公募のうえ掲示するもので、2018 年及び 2019 年は土木会館 1 階廊下壁面を利用していたが、2020 年はコロナ禍に鑑みウェブ掲載とした。

3. おわりに

JSCE2020 プロジェクトは、開始直前に COVID-19 パンデミックが発生したことを受けて活動形態の大幅な変更を余儀なくされた。実際、予定していた活動を始める前に、ウェブ会議の設定や継続的な情報共有など、さまざまなことが稼働するよう手続きや周知をしなければならなかった。

その一方で、「新しい生活様式」の下、ウェブ会議があたりまえとなり、情報共有などいろいろな面で利便性が向上した。とくに、支部などの地方在住や外国在住者、COVID-19 流行前から在宅勤務をしていた方など、これまで場所的・時間的制約が多く、D&I 推進が難しいと思われていた人たちにとって、大きなことであつたと思われる。また、ウェブの活用により、当初予定していなかったさまざまなアイデアも生まれた。

これには技術の進歩や適用よりも価値観の変化が大きく寄与していると思われ、D&I の一層の推進に向けた大きなヒントになるのではないかと考えている。

参考文献

- 1) JSCE2020-2024 ～地域・世代・価値をつなぎ、未来社会を創造する～ (略称: JSCE2020)
<https://committees.jsce.or.jp/JSCE20XX/jsce2020>
- 2) 土木学会誌 2021 年 2 月号

